へ13
3730
13
へ13
3730
14

へ13
3730
13

門 へ13
號 3730
巻 13

其由縁鄙俤

種員作
豐國画

第七編
上之巻

照隆町
錦昇堂梓

其由縁鄙俤第七集叙

原書い近江の石山寺ゑ茶篭て綴出しとらふい誣る説ときしらど式部ゞ
大い秋の夜乃月く等く運げば其月あくぬ品定の夜雨ゑい辛寄さへ
忍ゞと巻の長きと短きい夕日照せる瀬田の橋此物語の久く鳴事三井
の鐘ゑもはゝられば暮雪ゑ名ゐる比良の山賤矢橋ゑ楫棹舩人迫堅田の
雁の落ゑく知らん抑かゝる愛顧東西を果敢き策子ゑ翻案ハ粟津
の嵐晴ゞゆゝ江湖ゑ恥を售所業ゑおゞゝ世活をするゝのゆをん仕
八景ゑい比ぶれど彼國ゑ採〻華なゝぬとゑ安藤生ゞ明白ゑゞゝらひ
ゐる紫女七論七編の序ハ斯ぞりり結〻ゝ

嘉永壬子獻歳

柳下亭種員記

若菜上巻
足利輝基
西山の
別館なる兄
義尚入道殿を
訪問手高

若菜上巻

御扇をかざしてとるつゝく
ゆえんかり〳〵まひて中の戸あけて
えもいはぬ風情〳〵ありていとゝさ
あげふのこゝろえんさまくべ
ゆやもちくとゝろのくしく
初やめしてるさまそ
昔のよそぢまたづる
きゝえん殿ハ兵

足利義澄公の簾中
明石ノ上

女三宮ノ比

義尚公の養女
三世姫

紫ノ方

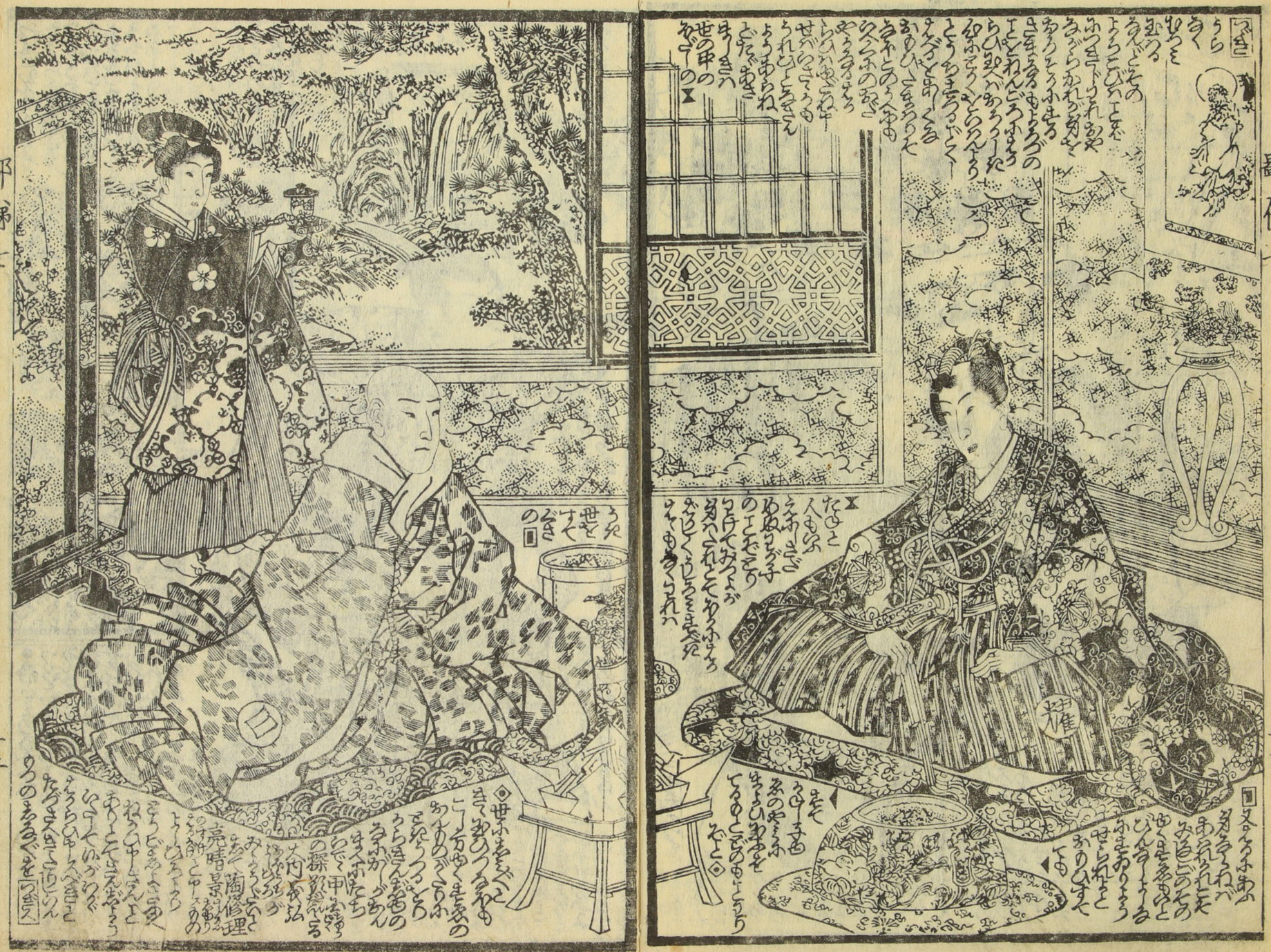
中納言君と比
三世姫の
浮世
中空

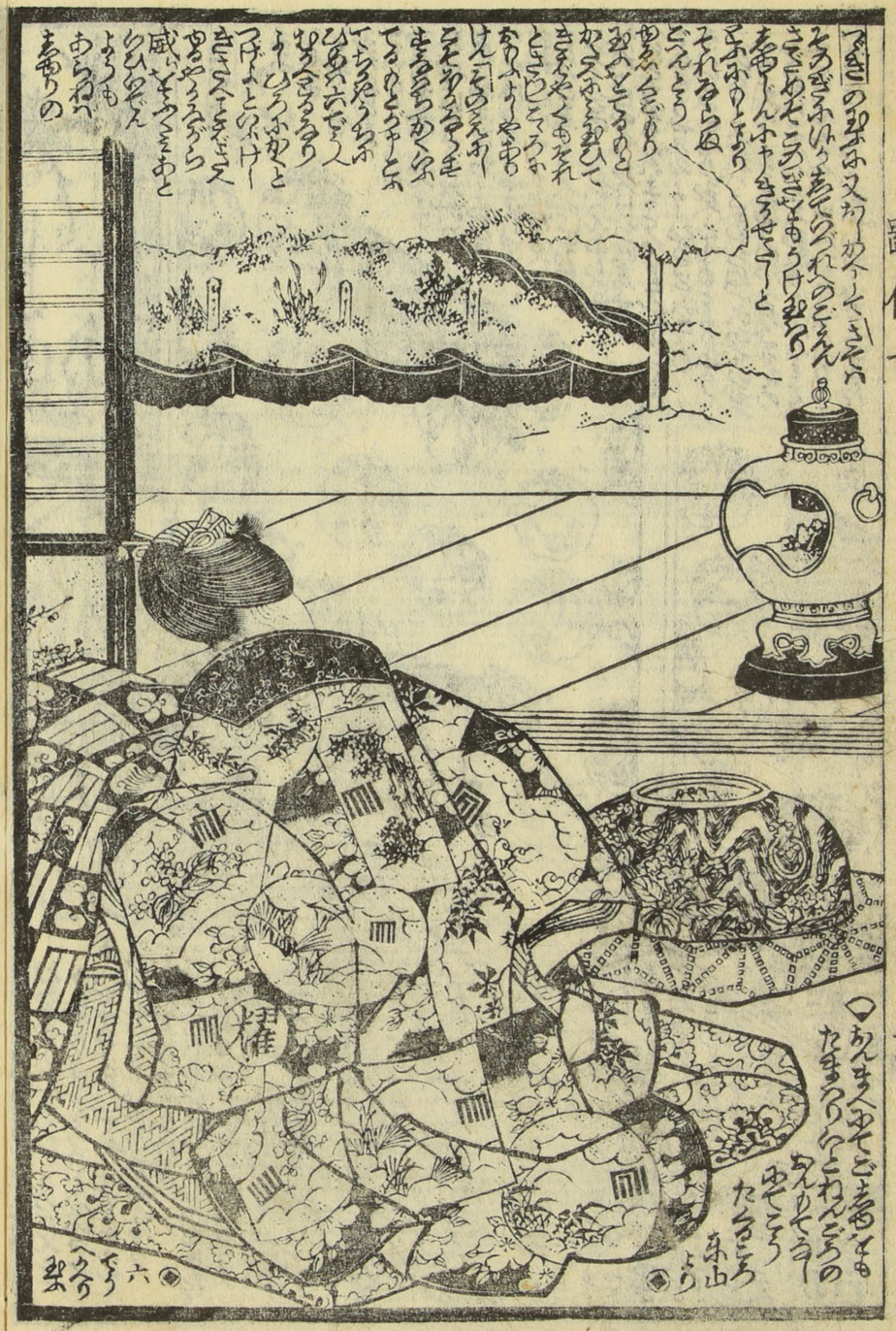
長享二年十二月

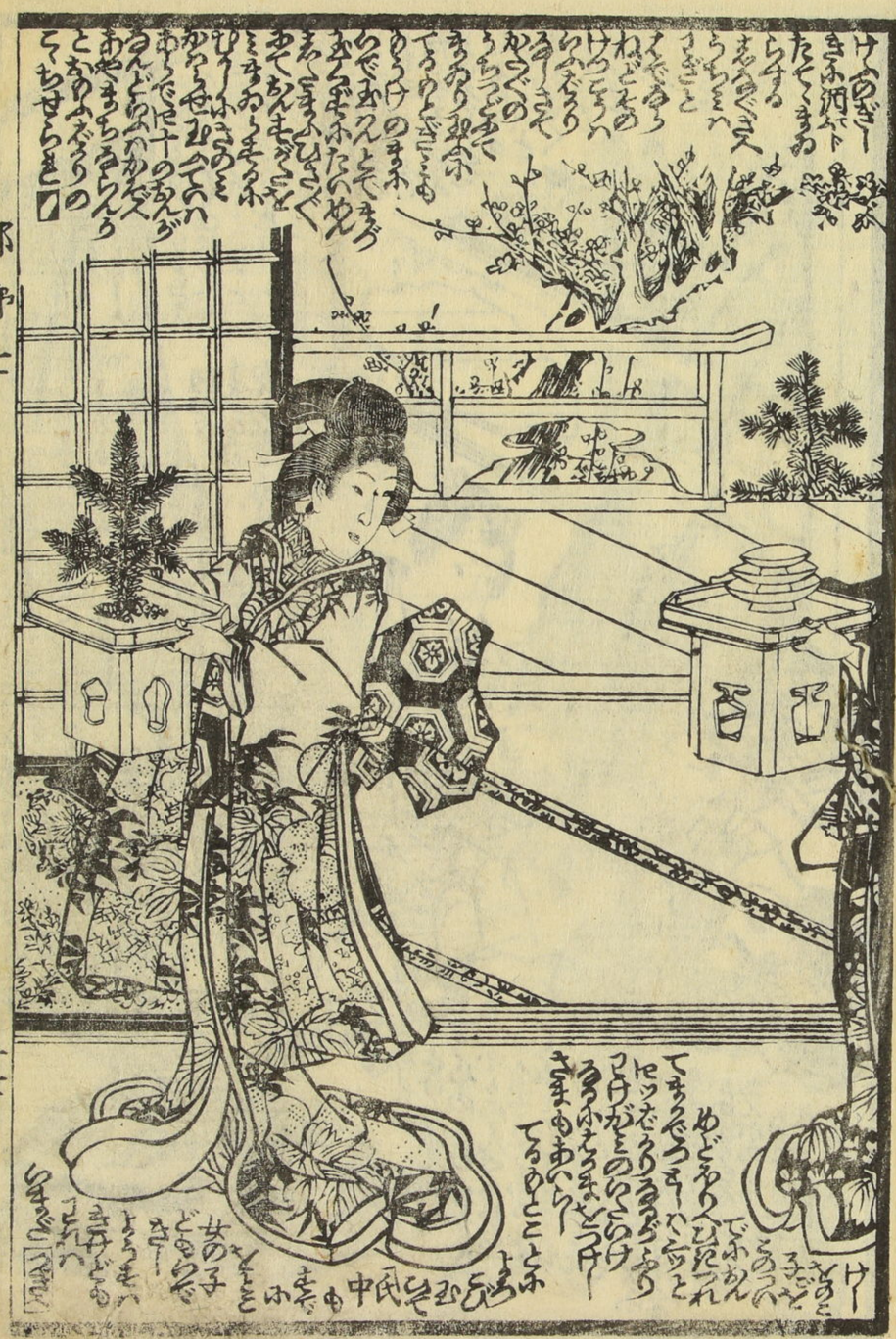
種員作　豊國画

へ13
3730
14

門へ13
3730
巻14







柏
梅

牛
丙
丙

つぐき
玉壺生肌膏
料 兆六孔
金瘡
即愈奇功帝 料 兆四孔
調合所 新吉原 玉楼
種員作
豊國画
取次所
東海道
東百坂下
柳下亭
中
世